

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- ☐ 巻頭言・自動車リサイクル士の資格期限を迎えられる皆様へ…P1
☐ 欧州における自動車の電動化に関わる動向等について … P2・P3
☐ 第2回 ブロック長会議の結果 / 沖縄ブロック会議の結果 … P4
☐ 2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業8月出荷状況と上期累計
 / 8月新車販売・使用済自動車発生台数 … P5 ☐ 鉄スクラップ最新情報 … P6
☐ 日産リーフ・e NV200 リチウムイオン電池買取のご案内… P7 ☐ 行事予定・お知らせ / 編集後記 … P8

vol. **151**

自動車リサイクル士の資格期限を迎えられる皆様へ

01

2021年度(今年度)、自動車リサイクル士の資格期限(有効期限)を迎えられる方には、6月頃に更新講習会のご案内を郵送しております。

今年度更新されなかった場合は、**自動車リサイクル士の資格が失効し**、再取得の場合は新規講習会を再度、受けていただく形となってしまいます。

【2021年度の更新講習会対象の方】

- ①資格期限が“**2021年3月まで**”で、かつ、昨年度の更新講習会を受けられなかった方
- ②資格期限が“**2021年10月まで**”の方
- ③資格期限が“**2021年11月まで**”の方

全3回の更新講習会のうち、第2回目までのお申込みは既に締め切っておりますが、第3回目はまだお申込みを受付しております。

■第3回目 更新講習会

開催日：2022年2月4日(金)10:00～16:00頃まで

申込締切：2021年12月15日(水)消印有効

定員：85名

開催方法：WEB上で講習を視聴するサテライト方式
(パソコンやタブレット等で簡単に受講出来ます。)



WEBを活用した講習会となっておりますので、会場に足を運ぶことなく会社のパソコンやご自宅のパソコンでも受講していただけます。

講習会詳細、お申込書のダウンロードは以下のURLから

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html>

(2021年度講習会関連情報(更新講習会)をクリック)

■昨年度受講された方の声

▶ http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20210129095912-Vol.143_20210129.pdf

■この自動車リサイクル士制度について、「どんな資格なの?」や、「資格を取得した方の声」などをまとめた動画も公開しております。

▶ <http://www.elv.or.jp/index.php?itemid=1776>

<お問い合わせ先>

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局 (担当: 京野)

■TEL:03-3519-5181 ■FAX:03-3597-5171 ■mail:jaera-homepage@elv.or.jp

巻頭言

本稿を寄稿している時点では、9月12日までとされている緊急自体宣言の延長が取りざたされています。

SNSやAIの発達によって情報がカスタマイズされ、視聴者が気にしている情報が大量にPCやスマホの画面に表示されるようになり、不安を抱えた人には不安をあおるマイナスの情報も大量に入ってくるようになりました。

筆者はマイナスの情報を緩和する意味も込めて次のサイトも参照するようにしています。

(参照サイトはこちら↓)

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/>

上記サイトのようなグラフ化・視覚化された資料ですと、現状だけでなく、近い将来の感染者数や重症化数のある程度予測できるようになりますので、自分なりに予測して将来の展望を描いてみるのも面白いかもしれません。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: <http://www.elv.or.jp/>

前号 (No.150) からの続き

(2) 新しいEU電池規則の法案の概要

以上に述べた流れができてしまった欧州では、自動車メーカーが歓迎するしないに拘わらず、EV 化の流れは止まることなく、今後も加速することはどうやら間違いなさそうである。

このような状況を受けて、EU は EV バッテリーを含む電池管理の規制を定める電池指令の改正作業を進めている。その法案が昨年 12 月 10 日に公表された。

この法案を見て気づくことは、現行法は電池に含まれる有害物に関わる規制が主であるが、新しい法案では、電池のライフサイクルをトータルに管理する法律へと大きく様変わりしようとしていることである。同法案の概要を以下に示す。

①回収目標値・リサイクル目標値に関わる要求事項 (案)

1) 回収目標に関して

- ▶ 携帯用電池の回収目標値 45%から 65%に引き上げ さらに、2030 年に 70%に引き上げられる。
産業用、自動車用、電気自動車用のバッテリーの回収目標については「完全に回収する必要がある」として。
- ▶ 欧州委員会の改正案には、携帯用バッテリーに関する新しい定義が示された。この定義では、密封され、重量が 5 kg 未満で、自動車用、産業用および電気自動車用に設計されていない、規則対象範囲内のすべてのバッテリーが含まれるとしている。
- ▶ したがって、将来的には電動自転車のバッテリーも携帯用バッテリーと見なされる可能性がある。ただし、少なくとも当初は、携帯用バッテリーの回収対象に、電動自転車やスクーターなどの「軽い輸送手段」用のバッテリーを除外しているため、携帯用バッテリーに電動自転車用バッテリーが含まれることは、少なくとも 2030 年末までに行われるとする法の見直し時期までないものと考えられる。
- ▶ 回収されたすべてのバッテリーについて、コバルト、リチウム、ニッケル、鉛などの貴重な材料については、高い回収効率でリサイクルする必要があるとして、バッテリーの特定材料ごとに定めるリサイクル目標が初めて設定された(下記の「3) 個別特定材料に関わる回収目標値」を参照)。

2) リサイクル目標値に関して

法案に示されたリサイクル目標値は表 1 の通り。

＜表 1 EU 新電池規則法案におけるリサイクル目標値＞

電池の種類	2025 年まで	2030 年まで
リチウムイオン電池	65%	70%
鉛蓄電池	75%	80%
その他の電池	90%	95%

- ▶ ニッケルカドミウム電池には、これまで最小リサイクル目標値 75 重量%としていたが、新改正案ではニッケルカドミウム電池の個別記載は取り除かれた。
- ▶ しかしながら、ニッケルは個別の特定材料として回収目標値の対象となり、コバルト、銅、鉛と同様に、2025 年以降、使用済みニッケルカドミウム電池に含まれるニッケルについて、90%以上を回収しなければならない規定が適用される(下記の「3) 個別特定材料に関わる回収目標値」を参照)。

3) 個別特定材料に関わる回収目標値

回収されたすべてのバッテリーについて、コバルト、銅、鉛、リチウム、ニッケルについて、高い回収効率でリサイクルする必要があるとして、各材料別に定める材料回収レベルが下記の通り設定された。

＜表2 EU 新電池規則法案における個別特定材料に関わる回収目標値＞

対象材料	2026 年まで	2030 年まで
コバルト	90%	95%
銅	90%	95%
鉛	90%	95%
リチウム	35%	70%
ニッケル	90%	95%

4) リサイクル材含有に目標に関して

▶産業用、自動車用、および電気自動車用の牽引バッテリーについては、最小リサイクル含有量基準を定める案を示している。これらのバッテリーの最小リサイクル材含有量に関わる要求水準は、次表の通り。

＜表3 EU 新電池規則法案におけるリサイクル材含有に目標値＞

対象材料	2026 年まで	2030 年まで
コバルト	12%	20%
銅	85%	85%
リチウム	4%	10%
ニッケル	4%	12%

②ラベリングに関わる要件

法案ではまた、電池メーカーに新しいラベル付けを義務づけている。2027 年以降、バッテリーは、たとえばバッテリーとその主な特性を識別するために必要な情報を含む QR コードを使用し、「視覚的で読みやすく、消えないように」印刷または刻印する必要がある。

また、バッテリーの「寿命、充電容量、個別回収の要件、有害物の存在、および安全上のリスク」に関する情報も提示する必要がある。

H さらに、EV バッテリーを追跡可能にする「バッテリーパスポート」を導入する規定も盛り込まれており、2026 年以降、EV バッテリーの個別製品について電子記録を作成する必要がある。バッテリーパスポートは、欧州委員会が設定したオンラインシステムを利用してシステムに保存されている、各バッテリーのタイプとモデルの基本的特性に関する情報を参照できる情報にリンクできるようにする必要がある。

③製造事業者の義務としてサプライチェーンに関わるデューデリジェンスが導入

新法案では、製造事業者の義務として、「サプライチェーンに関わるデューデリジェンス」(due diligence)が導入された。本事案については、附属書に定められた特定の原材料(コバルト、天然黒鉛、リチウム、ニッケル、電池の活物質の製造に必要な化合物)とリスク管理のカテゴリー(大気、水、土壌、生物多様性、人間の健康、労働安全衛生、児童労働を含む労働者の権利、人権、コミュニティ生活)について、通知機関およびサプライチェーン関係者への情報提供を、ビジネス・契約に関わる機密事項や競争に関わる事項などに留意しつつも、第三者検証を含む対応のなかで、より下流の事業者等に適切に情報提供を行う製造事業者の義務を定めている。

第 2 回 ブロック長会議の結果

03

2021 年度第 2 回ブロック会議が 9 月 21 日（火）に開催されました。前回に引き続き、オブザーバー（傍聴者）の方も募り、結果 24 名揃っての WEB 会議となりました。

各ブロックからの報告では、半導体不足や外国でのロックダウンによる工場閉鎖等から、新車の納期の遅れが顕著であること、また、比例して在庫台数が減ってきているといった報告が数多くありました。加えて、九州ブロックでは、懸念していた廃タイヤの処理の問題について、状況が更に悪化しており、処理費用の増加や処理自体を引き受けてくれるところが見つからないとの報告がありました。



【会議の様子】

機構の活動報告では、自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書について、現在の取組状況の報告があり、多岐に及ぶ取組みのなかで、既に動きのあるもの、順次検討が始まるもの、議論継続が必要として機構独自で国に提案した事項の 3 つについて説明がありました。また、今年度の自動車リサイクル士制度更新講習会について、まだ申込枠に余裕があることから、各ブロック長の皆様へ再度お声掛けしていただくこととなり、今後の自動車リサイクル士制度についても、皆様の意見をよりフィードバックするための体制作り等ご意見がありました。

最後に、新型コロナの影響により社員総会を開催することが出来ず、会員の皆様と顔を合わせる機会が少ないため、双方のコミュニケーションやご意見等を頂く場とした、“支部長会議”(WEB)の発案が酒井代表理事からあり、開催することが決定しました。

沖縄ブロック会議の結果

04

沖縄ブロック会議が 8 月 26 日（木）に WEB で開催され、機構本部からは、木内副代表理事、平地ブロック長会議長が出席しました。

会議の中で、“沖縄県の離島における廃発炎筒の処理”の問題について様々な報告や情報提供がありました。日本保安炎筒工業会の広域認定スキームでは、沖縄本島で発生した廃発炎筒の安定した処理が出来ている一方、沖縄本島離島は本スキームから外れているため、排出者責任の元、産業廃棄物処理業者と契約を交わして処理しなければならないという状況であるとのことでした。保安炎筒は、火薬類取締法上の「がん具煙火」に該当し、貯蔵量や輸送時の制限があるため、受入数量を調整しながらの処理の段取りが必要であり、かつ、運搬処分費用が高額となるため離島において大きな負担となっているため、広域認定スキームに組み込んで欲しいとの意見がありました。機構本部としても、国や自治体等に現在の状況を報告し、皆様と情報を共有しつつ取り組んでいくこととしました。



2021 年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 8 月出荷状況と上期累計

05

【2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 8 月出荷状況と上期累計】

上段 8 月出荷数 下段：上期累計 【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
22	49	88	1	0	23	0	0	1
53	196	375	3	0	231	1	3	4

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	カムリ HV	日産デューロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
1	0	1	0	2	0	1	12	179
5	3	4	0	2	1	2	27	857

□2020 年度の結果・2021 年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

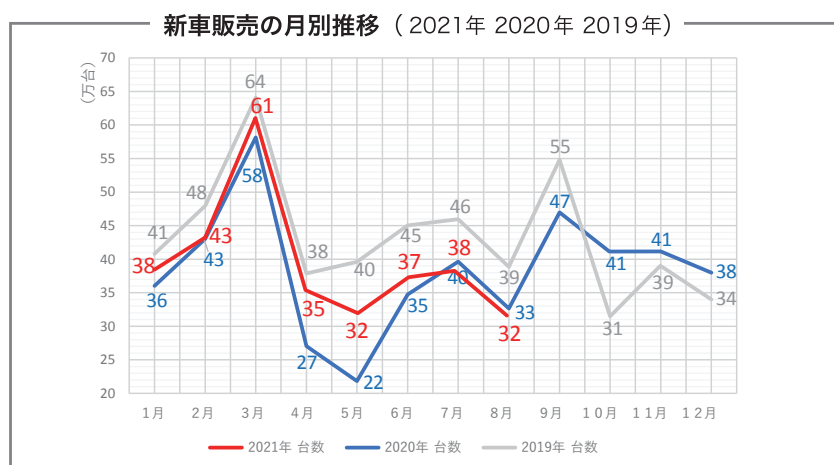
※セレナ C26 ジェネレーター共同出荷事業は予定数に達したため、終了しましたが、引き続き、リビルドコアとして
機構会員特別価格(9 月改訂)での買取を行っております。

買取をご希望の場合は、アーネスト(TEL048-981-6384、担当：川崎様・加藤様)までお問い合わせください。

8 月新車販売・使用済自動車発生台数

06

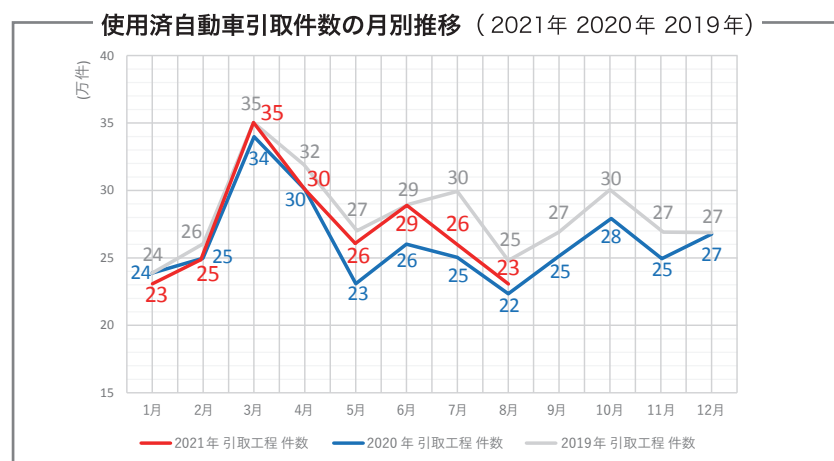
■2021 年 8 月度 新車販売台数 319,697台 前年同月比 97.9%



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2021年 (8月まで)	3,161,731	107.9
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

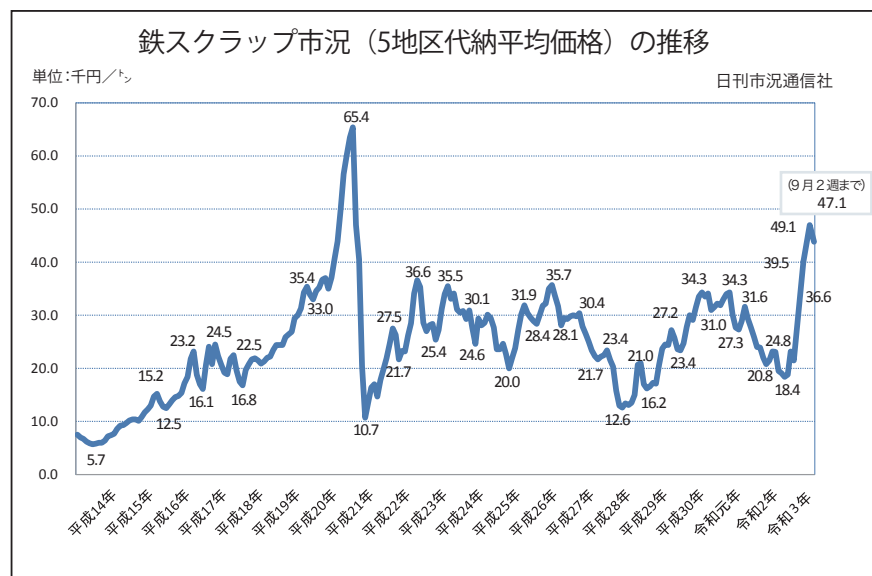
■2021 年 8 月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



引取件数
233,610件 (前年同月比 104.6%)
フロン回収工程
209,225件 (前年同月比 104.4%)
解体工程
244,359件 (前年同月比 105.5%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

9月第3週（15日）の鉄スクラップ動向



9月15日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	46,500～47,000	下げ止まり
	南関東	46,500～47,000	下げ止まり
	浜値	44,500～46,000	小幅反発
名古屋		47,000～48,000	様子見
関西	大阪	50,000～51,000	値上がり
	姫路	59,500～50,000	様子見

西日本、9月15日から一部地域除き反発展開 東京製鉄の西日本各拠点で500～1,000円上げ

西日本では一部地域を除き反発となった。西高東低や海外市場の回復の鈍さによって、域内要因だけでの上伸に疑問も残るが、東京製鉄の需要増を支えに、今後の市況は強含みで推移する公算が大きくなっている。

東京製鉄は15日から岡山、九州工場で一律1,000円、高松鉄鋼センターで同500円の値上げを実施。同社の特級買値は岡山で50,500円、九州で49,000円を付け、岡山工場では6月24日以来約3カ月ぶり、九州工場も5月19日以来4カ月ぶりの値上がりとなった。同社岡山工場では海上便の継続的な入着に加え、九州工場も高松鉄鋼センターからの在庫転送の動きが伝えられる。このため、今回の同社の値上げは予想外と受け止める声が多いが、岡山、九州工場ともに先月比で生産増が見込まれるなか、陸送での入荷は停滞感を強める動きにあったため、「499船の逼迫によって、陸送での入荷底上げを図らなければならないことが、今回の値上げに繋がったのでは」（商社）という。

これを受け、岡山以西の域内電炉は即日追随となりつつも、姫路は全社据え置き、大阪も8社中6社の値上げにとどまり、価格対応の足並みは揃っていない。海外対比での割高感も一段と強まっているため、上げ余地に不明な部分は残る。

【関東地区】 電炉値下げ一服し下げ止まり H2 浜値は反発し上伸

関東市場の鉄スクラップ市況は、H2 浜値が反発に転じたことや北海道・西日本市場の値上がりなどを受けて、下げ止まる状況となっている。先行安だったH2 浜値が反発に転じたことで、一部高値筋に修正下げの余地があるものの、関東電炉の鉄スクラップ購入価格は概ね下げ止まる動きで、電炉筋の下げが進む状況ではなく、H2 炉前実勢価格は46,500～47,000円中心。H2 浜値は44,500～45,500円中心、高値46,000円見当。

【東海地区】 上級品中心に引き締まり感目立つ

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見気配のまま月後半を迎えている。地区電炉メーカーは8月28日の値下げを最後に模様眺めの姿勢にあり、9月入り後も表立った値動きは見られない。こうした中、東海地区湾岸でも輸出価格に見合う現行価格帯での上級品種の集荷は困難とされる。品種間によって格差は見られるものの、上級品種を中心に引き締まり感が顕著になってきている。H2 炉前実勢価格は47,000～48,000円中心。

【関西地区】 膠着から一転、3カ月ぶりの上昇局面

大阪地区の市況は東京製鉄の買値引き上げに牽引され、6月以来の上昇局面を迎えている。15日からの値上げ幅は概ね1,000円。H2の在庫過多は続き、あくまでも東京製鉄要因に突き動かされたに過ぎないが、3連休に向けて、一定の入荷促進を図る必要があり、堅調ムードのまま月後半入りとなりそうだ。H2 炉前実勢価格は、大阪地区が50,000～51,000円中心、一部高値51,500円。姫路地区は49,500～50,000円中心で様子見横ばい。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月15日午前時点のもの）

日産リーフ・e-NV200 リチウムイオン電池買取のご案内

08

日本自動車リサイクル機構の皆さまへ、廃車より取り外したリチウムイオン電池の買取価格をご案内いたします。フォーアールエナジー株式会社は、日産自動車の「技術開発」、住友商事の「市場開拓」の強み生かして2010年9月に設立。車載用リチウムイオン電池の再利用技術の開発及び製造販売事業を運営しております。

買取対象製品：日産自動車 LEAF・e-NV200 車載電池 24kWh 電池パック

対 象 車 種：ZEO、AZE0

***AZE0の30kWh電池パックは当面对象外となります。今後、順次価格設定を行う予定です。**

買取価格条件：金額や条件は、予告なく変更する場合がありますので、最新情報は弊社 Website をご確認ください。

電池買取案内：<https://www.4r-energy.com/contents/purchase/>

引取り条件

①付属品

車載電池に附属する“強電ケーブル”“SD・SW”を必ず同封をお願い致します。
これら付属品がない場合は一律 5,000 円 (税込) の買取りとなります。

②対象外製品

自走不可車両・事故 / 修復歴のある車両・水没履歴のある車両に搭載されていた電池は買取対象外となります。
詳細は上記 Web サイトをご確認頂き、また下記問合せ窓口までお願い致します。

【価格表】

イメージ図：電池パック / SD・SW スイッチ / 強電ケーブル

セグメント値	買取価格(税込)
6以下	5,000円
7	35,000円
8	50,000円
9	70,000円
10	100,000円
11	150,000円
12	150,000円

*30kWh,40kWh,62kWhは一律 5,000円(税込)



【再生産・二次利用における安全性】

リチウムイオンバッテリーは使い方を誤ると、膨張発熱、最悪の事態では発火を招く危険性がございます。
どんなに電池が高品質であっても不正改造や誤制御、誤使用により重大事故が発生する可能性があります。
フォーアールエナジーではリチウムイオンバッテリーの再製品化につき、日産自動車との共同研究や開発を実施。安全に対してより一層厳しく管理を行い、再製品化を実施しております。

【バッテリー回収の依頼先及び取外し方法】

1. リチウムバッテリー回収受付窓口

LiB-callcenter@mail.nissan.co.jp (0120-083-505)

2. 日産自動車HP リチウムイオンバッテリー 取外し・回収マニュアル内記載

▶ https://www.nissan-global.com/JP/ENVIRONMENT/A_RECYCLE/BATTERY/index.html

上記連絡先までご連絡をお願い致します。

ー 10月の主な行事予定ー

■10月4日(月)

- ・第7回 広報部会

■10月5日(火)～12月15日(水)

- ・自動車リサイクル士制度
「新規講習会 講習動画配信開始」
※諸事情により開始が10月4日から
10月5日に変更となりました。

■10月12日(火)

- ・J-FAR(事例集) 定例会

■10月15日(金)

- ・自動車リサイクル士制度
「第2回 更新講習会」

■10月19日(火)

- ・第4回 常任役員会

■10月21日(木)

- ・東北ブロック会議

■10月29日(金)

- ・第56回自動車リサイクル
合同会議

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

～自動車再資源化協力機構より～ 車台詳細情報の未確認は措置対象になります！

現地監査にてエアバッグ類の未処理が発見された際の主な要因は「車台詳細情報の未確認」によるエアバッグ類装備位置・個数の誤認識でした。

車台詳細情報を確認せず車上作動業務を実施していた場合、規約第7条の規定に従い、登録の取り消し、または一時停止等の措置を行う場合がありますので必ず車台詳細情報を活用ください。

本件の詳細については、以下のリンク先をご参照ください。(自再協 HP 内)

→ http://www.jarp.org/pdfs/information/20210824_ab_information.pdf

編集後記

我が機構の専売特許ともいえる自動車リサイクル士制度、通称「自リ士」の認定講習会制度が、コロナ禍という逆風の中においても開催されます。今期は、新規は各ブロックでの現地開催、また更新開催はリモートを利用した開催となります。

しかしながら、このようなご時世なのか、はたまた告知が行き渡らないことが原因なのか、応募が芳しくありません。特に更新講習会の低迷が際立ち関係者の頭を悩ませています。「自リ士認定が何の役に立つのか？」という意見が時折聴かれます。このようなとき、フーテンの寅さんならきっと「それを言っちゃあ、おしまいよ」と諭してくれるに違いありません。自リ士は業界に関わる我々が我々のために作り上げる資格制度です。それは自動車業界という巨大な湖面に自動車リサイクル業界が一石を投じるようなものです。そしてこの一石は我が業界のアイデンティティー、存在意義にも繋がって行くことでしょう。機構のHPには手作りの自リ士の紹介動画がアップされています。緊張されながらも一所懸命に伝えようとする熱意に思わず感動します。

(広報部会長 永田 則男)